

広島県感染症発生動向月報

[広島県感染症予防研究調査会]
(平成20年11月解析分)

1 疾患別定点情報

(1) 定点把握(週報)五類感染症

平成20年10月分(平成20年9月29日～11月2日:5週間分)

| No | 疾患名 | 月間発生数 | 定点当り | 過去5年平均 | 発生記号 | No | 疾患名 | 月間発生数 | 定点当り | 過去5年平均 | 発生記号 |
|----|---------------|-------|------|--------|------|----|-----------|-------|------|--------|------|
| 1 | インフルエンザ | 10 | 0.02 | 0.01 | | 10 | 百日咳 | 29 | 0.08 | 0.02 | ↗ |
| 2 | RSウイルス感染症 | 163 | 0.46 | - | ↑ | 11 | ヘルパンギーナ | 48 | 0.14 | 0.14 | ↓ |
| 3 | 咽頭結膜熱 | 66 | 0.19 | 0.29 | ↘ | 12 | 流行性耳下腺炎 | 64 | 0.18 | 0.74 | ↗ |
| 4 | A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 | 289 | 0.81 | 0.65 | ↗ | 13 | 急性出血性結膜炎 | 1 | 0.01 | 0.01 | |
| 5 | 感染性胃腸炎 | 1,104 | 3.11 | 4.48 | ↗ | 14 | 流行性角結膜炎 | 59 | 0.62 | 1.13 | ↘ |
| 6 | 水痘 | 220 | 0.62 | 0.70 | → | 15 | 細菌性髄膜炎 | 2 | 0.02 | 0.00 | |
| 7 | 手足口病 | 119 | 0.34 | 0.17 | ↓ | 16 | 無菌性髄膜炎 | 5 | 0.05 | 0.09 | |
| 8 | 伝染性紅斑 | 45 | 0.13 | 0.12 | ↗ | 17 | マイコプラズマ肺炎 | 24 | 0.23 | 0.31 | ↗ |
| 9 | 突発性発しん | 190 | 0.54 | 0.64 | ↘ | 18 | クラミジア肺炎 | 0 | 0.00 | 0.00 | |

(2) 定点把握(月報)五類感染症

平成20年10月分(10月1日～10月31日)

| No | 疾患名 | 月間発生数 | 定点当り | 過去5年平均 | 発生記号 | No | 疾患名 | 月間発生数 | 定点当り | 過去5年平均 | 発生記号 |
|----|---------------|-------|------|--------|------|----|-------------------|-------|------|--------|------|
| 19 | 性器クラミジア感染症 | 60 | 2.61 | 2.15 | → | 23 | メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症 | 123 | 5.86 | 5.08 | ↗ |
| 20 | 性器ヘルペスウイルス感染症 | 27 | 1.17 | 0.74 | ↗ | 24 | ペニシリン耐性肺炎球菌感染症 | 38 | 1.81 | 1.51 | ↑ |
| 21 | 尖圭コンジローマ | 12 | 0.52 | 0.45 | → | 25 | 薬剤耐性緑膿菌感染症 | 6 | 0.29 | 0.41 | |
| 22 | 淋菌感染症 | 31 | 1.35 | 0.79 | → | | | | | | |

「過去5年平均」:過去5年間の同時期平均(定点当り)
報告数が少数(10件程度)の場合は発生記号は記載していません。

急増減疾患!!(前月比2倍以上増減)

急増疾患 RSウイルス感染症(69件 163件)
急増疾患 ペニシリン耐性肺炎球菌感染症(19件 38件)
急減疾患 手足口病(291件 119件)
急減疾患 ヘルパンギーナ(97件 48件)

発生記号(前月と比較)

| | | | |
|-----|---|---|--------------|
| 急増減 | ↑ | ↓ | 1:2以上の増減 |
| 増減 | ↗ | ↘ | 1:1.5～2の増減 |
| 微増減 | ↗ | ↘ | 1:1.1～1.5の増減 |
| 横ばい | → | | ほとんど増減なし |

定点把握対象の五類感染症(週報対象21疾患,月報対象7疾患)について,県内178の定点医療機関からの報告を集計し,作成しています。

| | 内科定点 | 小児科定点 | 眼科定点 | STD定点 | 基幹定点 | 合計 |
|---------|------|-------|-------|-------|-------------|-----|
| 対象疾病No. | 1 | 1～12 | 13,14 | 19～22 | 15～18,23～25 | |
| 定点数 | 43 | 72 | 19 | 23 | 21 | 178 |

2 一類・二類・三類・四類感染症及び全数把握五類感染症発生状況

| 類別 | 報告数 | 疾患名(管轄保健所) |
|------|-----|---|
| 一類 | 0 | 発生なし |
| 二類 | 53 | 結核〔広島市保健所(14)、福山市保健所(6)、呉市保健所(9)、広島地域保健所(4)、東広島地域保健所(12)、尾三地域保健所(6)、備北地域保健所(2)〕 |
| 三類 | 10 | 細菌性赤痢(D群)(1)〔呉市保健所〕 腸管出血性大腸菌感染症(O157)(7)〔広島市保健所(1)、福山市保健所(4)、備北地域保健所(2)〕 腸管出血性大腸菌感染症(O111)(2)〔東広島地域保健所〕 |
| 四類 | 4 | A型肝炎(2)〔呉市保健所、広島地域保健所〕、つつが虫病(2)〔広島地域保健所、芸北地域保健所〕 |
| 五類全数 | 8 | ウイルス性肝炎(B型)(3)〔広島市保健所(1)、福山市保健所(2)〕 ウイルス性肝炎(C型)(1)〔尾三地域保健所〕 梅毒(2)〔呉市保健所、福山地域保健所〕、アメーバ赤痢(2)〔呉市保健所、尾三地域保健所〕 |

3 一般情報

(1) インフルエンザの予防接種を受けましょう

例年、11月下旬から12月上旬頃にインフルエンザの流行がはじまり、1月下旬から2月上旬に患者数がピークになり、その後減少していきます。インフルエンザは、人口の約1割の人が感染するといわれ、特に高齢者や幼児は重症化しやすいので注意が必要です。

広島県内の今シーズンのインフルエンザ患者は、42週(10月13日～)から報告されており、流行のきざしが見られます。早めに予防接種を受けて、インフルエンザを予防しましょう。

予防接種を受けてから免疫力が上昇するまで2週間程度の期間が必要です。

予防接種の効果は5ヶ月程度持続します。

お近くの医療機関でインフルエンザの予防接種を受けることができます。事前に電話などで確認をして予防接種を受けてください。また、65歳以上の高齢者や60歳から65歳未満で心臓、腎臓又は呼吸器に重い病気がある方は補助が受けられますので、お住まいの市町にお問い合わせください。

流行期に外出する場合は、マスクをしてなるべく人ごみを避けてください。帰宅後は手洗いやうがいを励行し、食事や栄養のバランスに気をつけて十分に睡眠をとってください。また、部屋は乾燥させずにある程度の湿度を保つことがインフルエンザの予防に有効です。

(2) 12月1日は世界エイズデーです

エイズとは、HIV(ヒト免疫不全ウイルス)に感染しておこる病気で、身体を病気から守る免疫系が破壊されて、抵抗力が低下し、様々な病気にかかってしまいます。

HIVに感染してもすぐに発病するわけではありません。平均で約10年程度の潜伏期間を経て発病(発病した状態をエイズといいます。)します。HIV感染を早期に見出し、治療することで、発病を予防することが出来ます。

HIVは、日常的な接触では、感染しません。同僚や仲間がHIVに感染していたとしても接し方を変える必要はありません。

HIVの感染経路は3つです。

| | |
|------|---------------------------------|
| 性行為 | 感染者の精液、膣分泌液などに含まれるHIVが体内に入り感染 |
| 血液感染 | 麻薬などの静脈注射の回し打ちなどで感染者の血液が体内に入り感染 |
| 母子感染 | 感染した母親から赤ちゃんに感染 |

HIVはこんなことでは感染しません

| | | | | | |
|---------|----------|---------------|--------------|--------------|-----|
| せき・くしゃみ | 握手・抱擁 | つり革・手すり | コップの回し飲み | 鍋など同じ食べ物をつつく | プール |
| 共同浴場 | 蚊・ペット・献血 | 洋式トイレの便座やドアノブ | 事務用品やOA機器の共用 | | |

感染の不安があるときは相談や検査を受けましょう

県地域保健所・広島市各保健センターなどでは、匿名無料(予約が必要)でHIV抗体検査を受けることができます。なお、保健所・保健センターなどでは、検査したその日のうちに結果がわかる迅速検査を実施しています。

